

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『ルカ⑥ — 神さまに

できないことはない』 武田真治牧師

創世記 18:9-15 ルカ福音書 1:34-45

今日の箇所は昔から“受胎告知”と呼ばれ、絵画やステンドグラスなどに描かれ、人々から愛されてきました。ただ、そこで特別視されて来た点がマリアさんの処女性でした。聖書に「おとめマリア」とあるからで、この「おとめ」が昔から「処女」と訳されて来たからです。歴史的に申しますと既に4世紀にエピファノスという神学者がマリアの永久処女説を唱え、5世紀にはマリアさんだけを礼拝することも始まります。これにネストリオスは『マリアを神の母として奉ることはキリストへの信仰から異端である』と抗議も起こり、AD431年にエフェソ公会議が持たれ、マリアだけの礼拝は異端とされましたが、マリアを神の母と呼ぶことは正当であると決定されたのでした。以後、ますますマリアさんを特別視する傾向が強まり、宗教改革に於いてその傾向に厳しい批判がなされたのですが、1541年のトリエント公会議ではかえってマリアさんの“無原罪の宿り”が主張されました。これに対してはカトリックの中からもアンセルムスやトマス・アキナスらが行き過ぎであると批判が出たのですが、結局、1854年に正式な教理となり(ギリシア正教はこの教理を批准しませんでした)、更には1950年、教皇ピウス12世は「マリアは無原罪であるが故に死の際にそのまま天に昇天させられた(=聖母マリアの被昇天)」を正式に教理と定めたのでした。このようなマリアさんへの特別視は、ようやく1962年の第二バチカン公会議で是正されました。

確かに今日の箇所に「わたしは男の人を知りませんのに」というマリアさんの言葉からも処女であることは分かりますが、だからと言って永遠に処女とか、原罪がないとは言えません。この言葉もこの時まではそうであったということなので、この後、マリアさんはヨセフとの間に何人かの子供たち=ヤコブやユダ等を産んでいるが聖書にあります。

私たちは、むしろマリアさんの信仰=「お言葉どおり、こ

の身に成りますように」と、神様のご計画を引き受けていった姿に倣うべきではないでしょうか。“聖霊による身ごもり”はマリアさんより、イエス様が「神の子」であることを知らせる出来事であり、その方が“ひとりの女性から生まれた”ことは、神の子イエス様が「まことの人」となられた出来事を表しています。決してマリアさんを特別な存在にするためのものではないのですね。この点を『ハイデルベルク信仰問答』は、「『聖霊によって宿り、処女マリアより生まれ』というのは、どういう意味ですか?」という《問い》に答えて「永遠の神の子が、おとめマリアの肉と血によって、自らまことの間人性をとられたということ、聖霊の御業によるものです。それ故、すべての点で私たちと同じようになられたのです」とあります。まさにこの言葉の通りであると思います。この点でこそ「神にできないことはない」と告白していきたい!

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 3月27(水) 20:00
II. 3月28(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答

祈祷主題: イースターを覚えて

担当者: (水) 浦野 (木) 末留

祈りに覚える人: 山田さん 山中さん

*ひつじ雲の会 3月26日(火) 13:30~

*受難週早天祈祷会 3/25(月)~29(金) 6:30~

【教勢報告】

主日礼拝 男24 女56 計80

祈祷会 I. 男5 女2 計7 II. 男1 女10 計11

日曜学校 幼稚科14 小中科8 計22

ハンナの会(3月19日(火)) 男2 女10 計12

【次週主日礼拝】 3月31日(日)

聖書: 詩編 41:1~14

マタイ福音書 28:1~10

説教: 「イースター・詩編④—再び起き上がる!」

武田 真治牧師

讚美歌: 333(1)、32、聖歌隊323、326、
327、81(1~2)、28(1)

【次週当番表】

司式: 飯田長老 奏楽: 羽倉 礼拝: 坂田長老

配餐: 茨木 岩佐 金刺 金刺 各長老

献金: 大野 岡田 受付: 東 佐々木

会堂準備: 阿部 伊藤 伊藤 岩井

岩井

看板: 岩佐 週報: 吉岡 お花: 飯島

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: ・イースター祝会

2024年 3月 24日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>